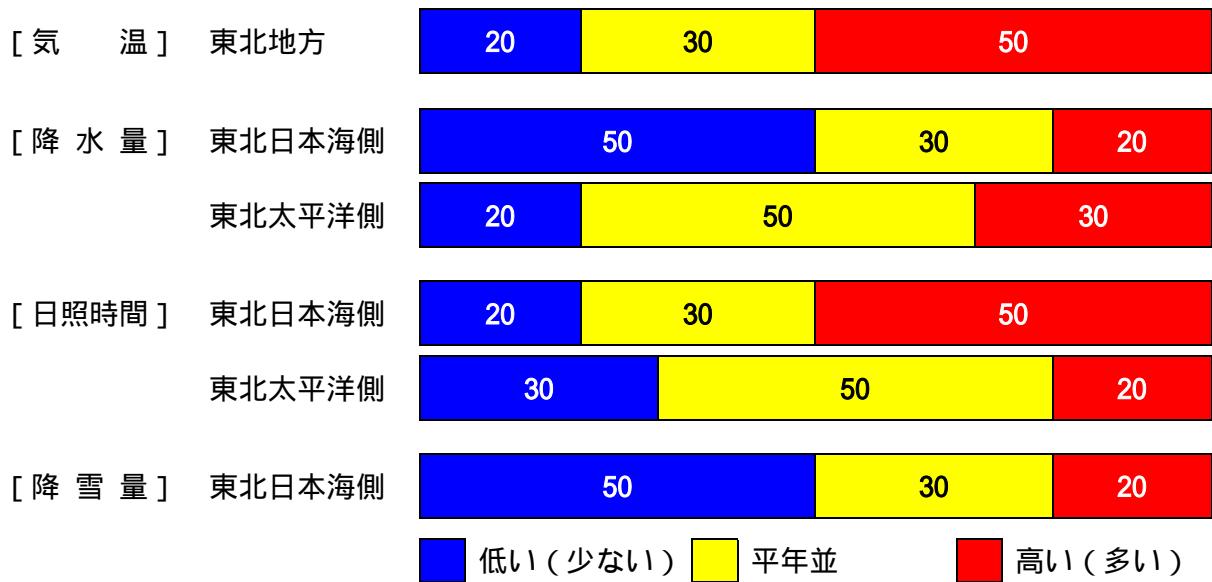


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:1月12日~2月11日)

平成14年1月11日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「低い」の可能性は 20%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「少ない」の可能性は 20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

[降 雪 量] : 東北日本海側は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は 30%です。「多い」の可能性は 20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年同様に晴れの日が多いでしょう。

なお、期間の前半は平年より気温の高い日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 東北日本海側では期間の中頃は高気圧に覆われて晴れる日もありますが、その他の日は寒気や気圧の谷の影響で曇りで雪や雨が降る見込みです。東北太平洋側は期間を通じて概ね晴れるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日

2週目…………… 天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

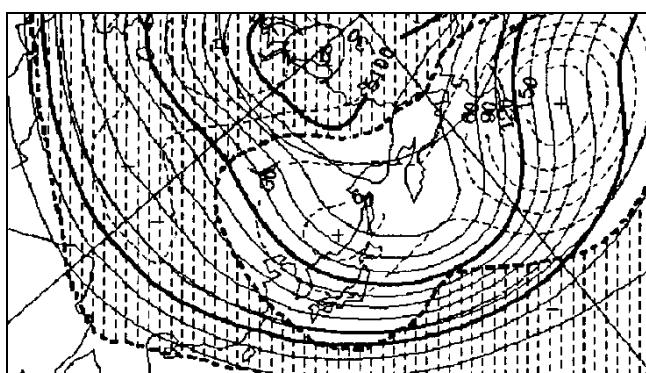
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

3~4週目…………… 天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

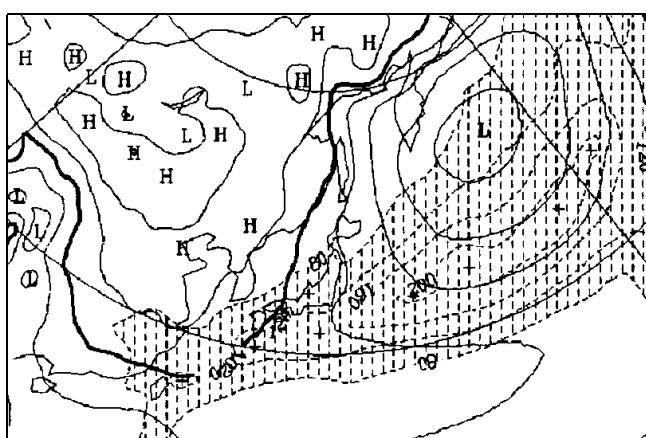


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は沿海州を中心を持つ正偏差に広く覆われるが、大陸から日本の南には負偏差域が広がる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化で、強い寒気は南下しにくい。

週別（図略）でも、月平均と同様の偏差場が予想され、各週共に北日本は正偏差に覆われる。



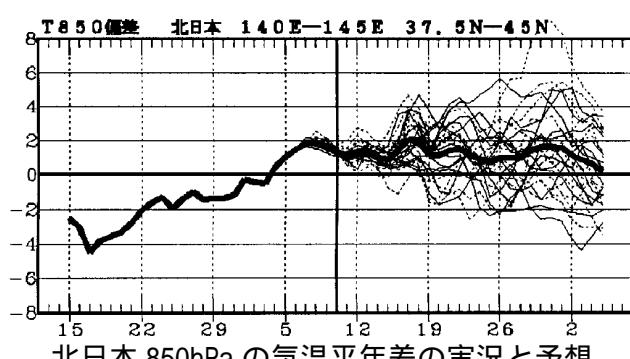
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸には高気圧があり、カムチャッカ半島の東には低気圧がある、日本付近は冬型の気圧配置となっているが、等圧線の間隔は広く冬型は弱い。

まとまった降水域は日本の南岸沿いから東海上に延びる。

週別（図略）でも、月平均と同様の気圧配置が続く。このため、天気は概ね周期的に変化し、気圧の谷の通過後に一時的な冬型の気圧配置となる見込み。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
(縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付)
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー (細線)
の平均値

・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、期間を通して平年をやや上回る。

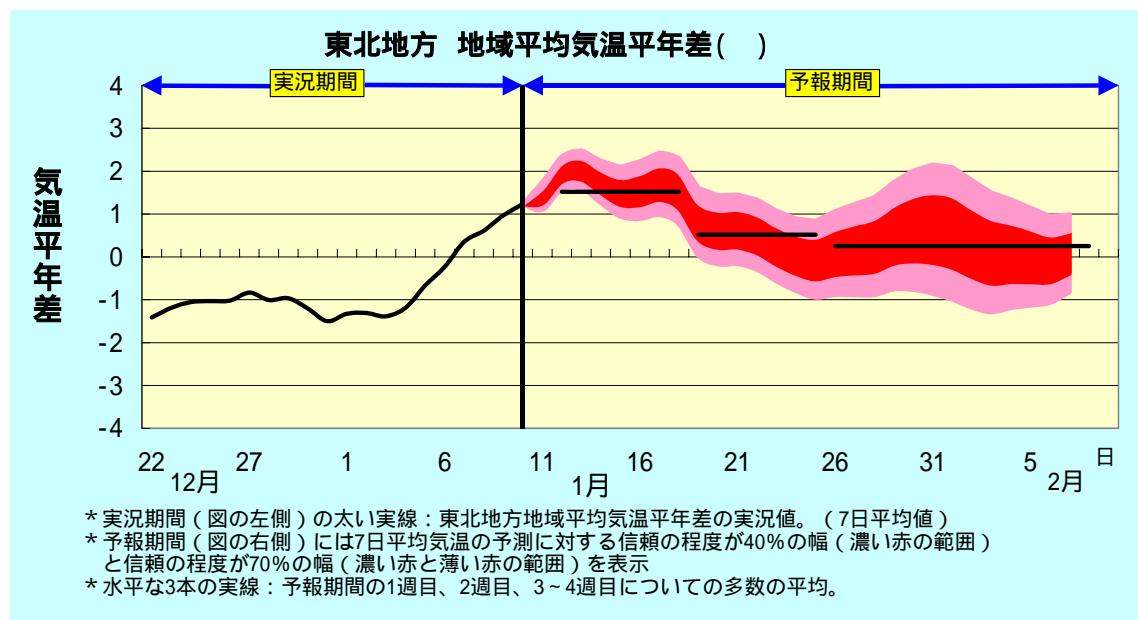
1週目後半からバラツキは大きくなり、3~4週目のバラツキはかなり大きい。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「高い」、2週目、3~4週目共に「平年並」を予測している。

予報は、他の予想資料から2週目を「高い」に修正する他は予測どおりとする。

なお、予報の信頼度は小さい。

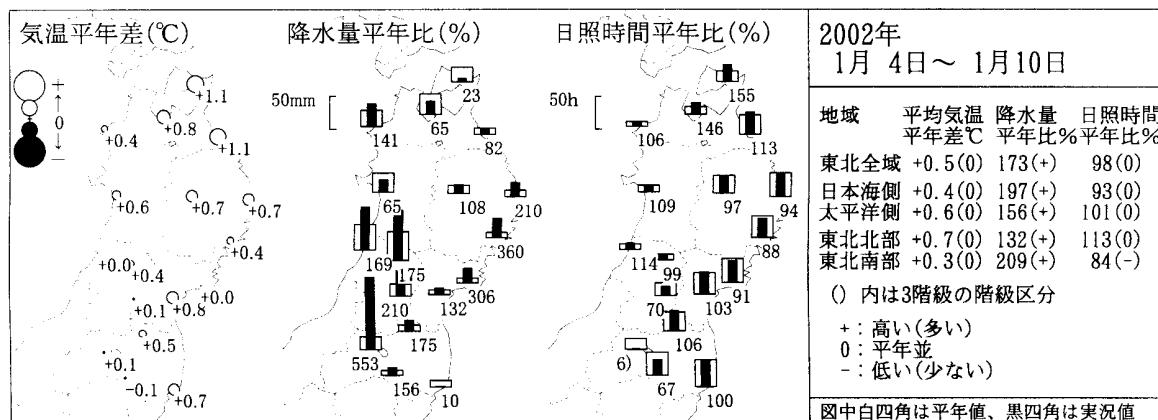


4. 最近1週間（1月4日～1月10日）の天候の経過

この期間、5日に発達中の低気圧が東北地方を通過し、通過時には東北南部で暴風雪となつた。このため、倒木や交通障害、けが人が出るなど大きな被害が発生した。また、8日には寒冷前線が東北地方を通過し、通過後は一時的に強い冬型の気圧配置となつた。このため、9日には風雪が強まり、交通障害が発生した。

東北日本海側では曇りで雪または雨の日が多くったが、高気圧に覆われ晴れる日もあった。東北太平洋側では晴れる日が多くったが、気圧の谷の通過時は雪や雨となった。

平均気温は、東北地方で平年差+0.5と平年並だった。降水量は、東北地方で平年比173%と多かった。日照時間は、東北北部で平年比113%と平年並、東北南部で平年比84%と少なかつた。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）